プロジェクト名称

笑顔のまち なこそ復興プロジェクト

プロジェクト活動概要

本プロジェクトは福島県いわき市勿来地区を対象としている。勿来地区は、東日本大震災による地震と津波の被害に加えて、原発事故による被害とその原発事故による移転者がいるなど複雑な状況が絡みあっている。震災から 6 年が経ち、住民同士によるコミュニティ形成といった目には見えない部分（ソフト面）の復興はまだ終わっていない。私達のこの部分に着目し、ソフト面の復興を早く進めていけるような活動を行っていく。

プロジェクト終了後に目標とする成果・結果 / その進捗

① 私たちが主体となった復興公営住宅完成前の既存住民と避難住民のコミュニティ形成
「くぼたんけん」、「バスツアー」の二つの交流イベントを行い、70人の参加者を集め、参加者にアンケートを取る。くぼたんけんでは、既存住民と避難住民の両住民の総数のうち 70%以上の参加者が交流できることを目標とする。バスツアーでは避難住民同士の交流の総数のうち 70%以上が交流できることを目標とする。

② 「なこそ 未来マップ」や、「くぼたお散歩マップ」による地域に根付く成果づくり
「なこそ 未来マップ」、「くぼたお散歩マップ」を作成し、それぞれ 2000 枚以上配布する。マップの効果により、お店を訪れる人が 1 割以上増加することを目標とする。

③ 笑顔の架け橋プログラムによる情報発信
Twitter、Facebook のフォロワーを 200 人以上にし、新たなつながりを形成していく。
団体ホームページの閲覧数を 2000 人以上とする。

① 10 月 1 日（日）に「くぼたんけん」を実施し、スタッフと合わせて 56 名だった。イベント終了時に実施したアンケートでは、既存住民と避難住民の交流が深まったと回答した人が 80%を超えた。

② 現地調査やヒアリング調査を行い、マップ掲載店舗の情報をマップにまとめている。また、第 1 版では、植田駅周辺の 4 店舗を掲載したマップを作製した。今後は、地元商店街（植田商店街）や商工会（いわき商工会）と調整し、植田地区の印刷所にてマップの印刷を行う予定である。
くぼたんけんマップでは、窪田町商店街の飲食店 4 店舗をマップに掲載する。また、窪田地区の行事をマップの空いているスペースに掲載して、窪田町商店街のイベントに参加してもらえるように工夫している。今後は、窪田町商店街と最終調整を行い、勿来地区の印刷所にて印刷する予定である。

③ Twitter と Facebook のフォロワーが現時点で約 140 人に到達し、ホームページの閲覧数が約 1500 人に到達した。これらのツールを活用し、イベント開催のための繋がりを構築することができた。

活動状況報告＆活動写真　　活動期間：2017 年 6 月 1 日 ～10 月 31 日

海フェス　（2017 年 7 月 8 日～9 日）

「海フェス」とは、いわきの豊かな自然資源である「海」の利活用をするために行われたライフセービングイベントで、勿来海岸で実施した。

7 月 8 日の前夜祭では、来場者にお好み焼きを提供したが、天気も良く、多くの方に来場していただいたため、喜んで頂けたと思う。また、地元の方や他大学の方と交流することができたので、今後もこういった交流を続けていきたいと思った。

7 月 9 日のイベント当日は、日本女子体育大学ライフセービング部の方が中心となって様々なプログ

ラムが行われた。私たちも運営スタッフとして働くだけではなく、ビーチフラッグスなどのプログラムに参加し、イベントを楽しむことができた。このイベントでは子供の参加者がとても多く、たくさんの「笑顔」を見ることができ、この「笑顔」が人と人とを繋いでいき、復興に繋がっていくため、海フェスというイベントが復興という意味で、とても重要なイベントであると改めて感じることができた。

前夜祭の様子　　イベント当日の様子

くぼたんけん（2017 年 10 月 1 日）

勿来窪田・酒井地区には、2018 年 3 月に大規模な復興公営住宅が建設される。しかし、住民が入居するにあたって、既存住民と原発避難者の軋轢や、復興公営住宅入居予定者が入居前に現地を知る機会が少ないということが課題となっている。そこで、復興公営住宅への入居前に、勿来地区で両住民の交流イベントを実施することで、両住民の自然な交流機会の増加のきっかけづくりや、窪田・酒井地区の生活拠点や商店街などを知ってもらうことを目的としている。今回のイベントは、スタッフを合わせて 57 名（内、8 名が双葉町出身）が参加した。

今年度はヒントを頼りにチェックポイントを巡る謎解きまち歩きを実施し、参加者自身が日ごろ気付かない地域の魅力を発見することや参加者同士の交流を促進することができるように工夫した。

今年度は、チェックポイントに國魂神社や源助霊社といった地域資源や呉服店、酒屋さんとった地元商店街のお店、復興公営住宅建設予定地など全 10 個を設定し、國魂神社の神主さんや商店街のお店の店主さんなどに説明して頂いた。

まち歩き後には、まち歩きの中で気づいたことや、勿来の歴史に詳しい方のお話を聞いたことを白地図に書き込んでもらうワークショップを行い、ワークショップ後には参加者の方を中心に発表して頂いた。くぼたんけんを通して、地元の方でも知らないような情報を知ることができ、両住民の方々にとっても有意義なイベントになったのではないかと感じた。このようなイベントを継続して行っていくことが両住民のコミュニティ形成にとっても、窪田・酒井地区を知ってもらうことにとっても重要なのではないかと改めて感じることができた。

まちあるきの様子　　ワークショップの様子　　発表の様子

未来マップの作成

未来マップとは、「植田商店街を中心に作成しているお散歩グルメマップ」と「津波によって被災した岩間海岸や小浜海岸の復興の様子と私たちや NPO の活動を載せた復興マップ」を合わせたものである。

地域住民の方々がこのマップを使って商店街のお店を使ってもらうことで、まちを活性化させること、マップを日常的に使ってもらうことで、勿来地区の復興について興味を持ってもらうことを目的としている。表面には勿来地区の震災当時から現在までの復興の様子や、勿来地区で行われたイベントの紹介、裏面には勿来地区の植田駅周辺の飲食店の紹介を記載しています。マップ作成のために、8 月に現地調査やヒアリング調査を行い、その結果を地図にまとめた。また、10 月に植田商店街やいわき商工会の方と打ち合わせを行い、マップ第 1 版の修正を現在行っていく。今後、会議にて最終調整を行い、今年中に発行する予定である。また、第 1 版の修正と同時に第 2 版の作成も行っていて、第 2 版は今年度中に発行する予定である。

表面

裏面

今後の活動計画、目標、意気込み

① 私たちが主体となった復興公営住宅完成前の既存住民と避難住民のコミュニティ形成

２０１８年１月 21 日にバスツアー企画「ほだ！勿来さ行くべ！！」勿来・双葉復興応援バスツアーを実施する予定である。このイベントは、勿来地区にできる復興公営住宅入居者に、勿来地区の地域資源を知ってもらうことで、入居前に勿来地区の魅力を知ってもらうことを目的としている。また、NPO「勿来ひと・まち未来会議」が主催で実施する「勿来かるたんか交流会」に参加することで、勿来地区の住民と双葉町の住民の交流のきっかけづくりが出来るような工夫をしている。現在は NPO「ひと・まち未来会議」や地元行政（いわき市や双葉町）などの関係者の方と調整を行っている段階である。

② 「なこそ 未来マップ」や、「くぼたお散歩マップ」による地域に根付く成果づくり

「なこそ　未来マップ」は、第 2 版の発行に向け、掲載店舗へのヒアリング調査や現地調査を実施し、団体内でまとめている段階である。今後は、植田商店街やいわき商工会との調整のもと、今年度中に発行できるようにしていく。

「くぼたお散歩マップ」は、窪田町商店街の方と最終調整を行い、今年度中にマップの素案を完成させる予定である。今後は、NPO「勿来ひと・まち未来会議」等と調整を行いながら、関係者の方の意見を伺い、今年度中に発行する予定である。

③ 笑顔の架け橋プログラムによる情報発信

現地で活動するたびに Facebook や Twitter で活動の様子を載せ、今後も更新していく。

団体ホームページの運営管理を積極的に行い、更新頻度を上げていき、良いものが出来次第、SNS を用いて、情報の拡散を行っていく。